

四半期報告書

(第43期第3四半期)

株式会社東邦システムサイエンス

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期財務諸表】	8
2 【その他】	12
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	13

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月13日

【四半期会計期間】 第43期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社東邦システムサイエンス

【英訳名】 TOHO SYSTEM SCIENCE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村上 宣夫

【本店の所在の場所】 東京都文京区小石川一丁目12番14号

【電話番号】 03 (3868) 6060

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 高橋 誠

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区小石川一丁目12番14号

【電話番号】 03 (3868) 6060

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 高橋 誠

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期 累計期間	第43期 第3四半期 累計期間	第42期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	7,096,167	7,207,928	9,626,063
経常利益 (千円)	536,718	561,794	752,841
四半期(当期)純利益 (千円)	311,402	323,497	435,958
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	526,584	526,584	526,584
発行済株式総数 (株)	6,932,996	6,932,996	6,932,996
純資産額 (千円)	4,043,112	3,913,559	4,180,901
総資産額 (千円)	6,597,036	6,775,969	7,512,525
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	45.88	47.96	64.23
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	20.00
自己資本比率 (%)	61.3	57.8	55.7

回次	第42期 第3四半期 会計期間	第43期 第3四半期 会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	18.42	23.69

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策を背景にした円高是正と株価上昇により、企業の収益改善や個人消費の持ち直しの動きが見られ、景気は緩やかな回復が続きました。

当社が属する情報サービス業界におきましては、経済対策の波及効果もあり、先送りしてきたシステム開発案件等の需要も見込まれ、金融業や製造業を中心にソフトウェア投資は回復傾向にあります。

このような経営環境のもと、当社は主要マーケットである金融系分野において、損害保険系システム統合案件や証券系共同システム案件などの大型案件が順次終了するなか、銀行系業務や生命保険系業務の売上が増加いたしました。また、金融系分野以外の取引拡大についても積極的な営業活動を展開してまいりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高は7,207百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は555百万円（同6.3%増）、経常利益は561百万円（同4.7%増）、四半期純利益は323百万円（同3.9%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

①ソフトウェア開発

当社の中心的なビジネス領域である金融系分野の売上高は5,882百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

情報系システムを中心に受注が拡大した銀行系業務は1,105百万円（同80.8%増）と前年同期を大幅に上回り、継続案件が拡大した生命保険系業務は1,350百万円（同27.2%増）と好調に推移しました。

一方、損害保険系業務、証券系業務は大型案件終了に伴い、それぞれ2,261百万円（同17.2%減）、1,051百万円（同29.6%減）となりました。

金融系分野以外では、通信系業務が316百万円（同31.9%減）と前年同期を下回ったものの、積極的な営業活動により運輸・郵便系業務は182百万円（同63.6%増）と大きく伸展し、新たに開拓した医療・福祉系業務は185百万円となりました。

これらの結果、ソフトウェア開発の売上高は6,950百万円（同1.5%増）となりました。

②情報システムサービス等

主たる業務であるコンピュータ運用管理業務は順調に推移し、情報システムサービス等の売上高は257百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

<資産、負債及び純資産の状況>

当第3四半期会計期間末における総資産は6,775百万円となり前事業年度末に比べ736百万円減少しております。これは主として、仕掛品が178百万円、投資有価証券が29百万円増加し、現金及び預金が780百万円、売掛金が54百万円、繰延税金資産（流動資産）が94百万円、のれんが39百万円減少したことによります。また、負債合計は2,862百万円となり前事業年度末に比べ469百万円減少しております。これは主として、未払費用が27百万円、退職給付引当金が84百万円増加し、買掛金が216百万円、未払金が41百万円、未払法人税等が161百万円、賞与引当金が157百万円減少したことによります。純資産は3,913百万円となり、前事業年度末に比べ267百万円減少しております。これは主として、四半期純利益323百万円の計上による増加、剰余金の配当135百万円及び自己株式の取得474百万円による減少があったことによります。これらの結果、自己資本比率は57.8%となり、前事業年度末に比べ2.1ポイント増加しております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は3百万円であります。

なお、当第3四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,932,996	6,932,996	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株 であります。
計	6,932,996	6,932,996	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	—	6,932,996	—	526,584	—	531,902

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 146,200	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 6,749,100	67,491	—
単元未満株式	普通株式 37,696	—	—
発行済株式総数	6,932,996	—	—
総株主の議決権	—	67,491	—

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数13個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
（自己保有株式） 株式会社 東邦システムサイエンス	東京都文京区小石川 一丁目12番14号	146,200	—	146,200	2.11
計	—	146,200	—	146,200	2.11

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,594,318	3,814,051
売掛金	1,272,993	1,218,144
有価証券	405,363	405,539
仕掛品	6,151	184,223
繰延税金資産	180,948	86,881
その他	56,023	61,332
貸倒引当金	△4,446	△4,363
流動資産合計	6,511,352	5,765,809
固定資産		
有形固定資産	32,836	28,817
無形固定資産		
のれん	53,139	13,284
その他	60,930	52,623
無形固定資産合計	114,069	65,908
投資その他の資産		
投資有価証券	84,871	114,538
繰延税金資産	619,960	643,528
その他	154,184	162,118
貸倒引当金	△4,750	△4,750
投資その他の資産合計	854,266	915,434
固定資産合計	1,001,172	1,010,160
資産合計	7,512,525	6,775,969

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	710,892	494,296
リース債務	3,086	3,125
未払金	66,394	24,775
未払費用	137,859	165,208
未払法人税等	190,820	29,501
賞与引当金	335,709	178,114
受注損失引当金	—	4,352
その他	156,051	137,181
流動負債合計	1,600,813	1,036,554
固定負債		
リース債務	12,742	10,395
退職給付引当金	1,609,626	1,694,086
役員退職慰労引当金	108,442	121,373
固定負債合計	1,730,811	1,825,855
負債合計	3,331,624	2,862,409
純資産の部		
株主資本		
資本金	526,584	526,584
資本剰余金	531,902	531,902
利益剰余金	3,189,469	3,377,226
自己株式	△71,139	△545,342
株主資本合計	4,176,816	3,890,369
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,084	23,190
評価・換算差額等合計	4,084	23,190
純資産合計	4,180,901	3,913,559
負債純資産合計	7,512,525	6,775,969

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	7,096,167	7,207,928
売上原価	5,809,014	5,877,124
売上総利益	1,287,153	1,330,804
販売費及び一般管理費	764,913	775,438
営業利益	522,240	555,366
営業外収益		
受取利息	294	275
受取配当金	2,116	1,836
保険返戻金	729	1,225
保険事務手数料	821	804
貸倒引当金戻入額	626	83
投資有価証券売却益	7,550	—
保険配当金	1,278	1,404
その他	1,061	984
営業外収益合計	14,478	6,613
営業外費用		
支払利息	—	120
固定資産除却損	—	65
営業外費用合計	—	185
経常利益	536,718	561,794
税引前四半期純利益	536,718	561,794
法人税、住民税及び事業税	136,098	178,359
法人税等調整額	89,217	59,937
法人税等合計	225,315	238,297
四半期純利益	311,402	323,497

【注記事項】

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	17,120千円	18,464千円
のれんの償却額	39,854千円	39,854千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	115,383	17	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	135,741	20	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

(自己株式の取得)

当社は平成25年12月13日開催の取締役会において自己株式の取得を決議し、平成25年12月16日付で自己株式720,300株（取得価額473,957千円）の取得を実施いたしました。これにより、当第3四半期会計期間末において自己株式が545,342千円（866,623株）となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社の報告セグメントは「ソフトウェア開発」のみであるため、記載を省略しております。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当社の報告セグメントは「ソフトウェア開発」のみであるため、記載を省略しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当社の報告セグメントは「ソフトウェア開発」のみであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社の報告セグメントは「ソフトウェア開発」のみであるため、記載を省略しております。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当社の報告セグメントは「ソフトウェア開発」のみであるため、記載を省略しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当社の報告セグメントは「ソフトウェア開発」のみであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	45.88円	47.96円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	311,402	323,497
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	311,402	323,497
普通株式の期中平均株式数(株)	6,787,213	6,744,911

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 2月13日

株式会社東邦システムサイエンス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 日 高 真 理 子 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 屋 浩 孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社東邦システムサイエンスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第43期事業年度の第3四半期会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社東邦システムサイエンスの平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【会社名】	株式会社東邦システムサイエンス
【英訳名】	TOHO SYSTEM SCIENCE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 村上 宣夫
【最高財務責任者の役職氏名】	該当なし
【本店の所在の場所】	東京都文京区小石川一丁目12番14号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長村上宣夫は、当社の第43期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。